

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	京都先端科学大学
設置者名	学校法人 永守学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
経済経営学部	経済学科 (2025～)	夜・ 通信	8	12	0	20	13	
	経済学科 (2019～2024)	夜・ 通信	0	14	6	20	13	
	経営学科 (2025～)	夜・ 通信	8	12	6	26	13	
	経営学科 (2019～2024)	夜・ 通信	0	14	8	22	13	
人文学部	心理学科 (2025～)	夜・ 通信	8	4	10	22	13	
	心理学科 (2019～2024)	夜・ 通信	0	6	14	20	13	
	歴史文化学科 (2025～)	夜・ 通信	8	4	6	18	13	
	歴史文化学科 (2019～2024)	夜・ 通信	0	6	10	16	13	
バイオ環境学部	生物環境科学科 (2025～)	夜・ 通信	8	12	3	23	13	
	応用生命科学科 (2025～)	夜・ 通信	8	12	2	22	13	
	バイオサイエ ンス学科 (2019～2024)	夜・ 通信	0	16	6	22	13	
	バイオ環境デザ イン学科 (2019～2024)	夜・ 通信	0	16	5	21	13	
	食農学科 (2019～2024)	夜・ 通信	0	16	12	28	13	
健康医療学部	看護学科 (2025～)	夜・ 通信	8	0	19	27	13	

	看護学科 (2019～2024)	夜・通信	0	0	21	21	13	
	言語聴覚学科 (2025～)	夜・通信	8	0	12	20	13	
	言語聴覚学科 (2019～2024)	夜・通信	0	0	22	22	13	
	健康スポーツ学科 (2025～)	夜・通信	8	0	8	16	13	
	健康スポーツ学科 (2019～2024)	夜・通信	0	2	13	15	13	
工学部	機械電気システム工学科 (2025～)	夜・通信	8	0	14	22	13	
	機械電気システム工学科 (2019～2024)	夜・通信	0	2	14	16	13	
(備考) ・1年生は新課程、2年生～4年生は旧課程。 ・バイオ環境学部 生物環境科学科および応用生命科学科は令和7年度開設 (完成年度到達前) ・バイオ環境学部 バイオサイエンス学科、バイオ環境デザイン学科、および食農学科は令和7年度募集停止。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページ「シラバス検索」ページに掲載している。

<https://www.kuas.ac.jp/academics/syllabus/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都先端科学大学
設置者名	学校法人 永守学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kuas.ac.jp/nagamori-gakuen/officer/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	一般社団法人 理事長	2025.6.21～選 任後3年以内 に終了する会 計年度のうち 最終のものに 関する定時評 議員会	適切な学校法人運営 (財政関係)
非常勤	弁護士	2025.6.21～選 任後3年以内 に終了する会 計年度のうち 最終のものに 関する定時評 議員会	適切な学校法人運営 (ガバナンス関係)
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都先端科学大学
設置者名	学校法人 永守学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

- | |
|---|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 |
|---|

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

・授業計画（シラバス）の作成過程・時期

大学教務委員会において各学部各学科の授業科目の担当者を決定した後、12月に教務センター長名で各科目担当者に授業計画（シラバス）の執筆を依頼する。1月中旬までに担当者が各科目の授業計画（シラバス）を作成し、学生情報共有システムに入力する。その後、全シラバスについて、大学教務委員会構成員が責任をもってチェックを行い、不適切な個所があるものについては各科目担当者に修正を依頼する。

・授業計画書の公表時期

春学期のオリエンテーション開始前に本学ホームページ上で公開する。

・授業計画（シラバス）の内容

シラバスの記載項目及びその概要は、以下の通り。

1. 「授業概要」には授業で学ぶ内容とその意義・目的について概略を記述している。目的部分は、学生からの「なぜこれを学ぶ必要があるのか？」という問いに対する、教員からの回答を想定した内容となっている。また、実務経験のある教員等によってなされる授業科目についてはその旨を記載している。
2. 「到達目標」は、学生を主語にし、観察可能な動詞（「説明する」「討議する」など）を用いながら、3つ以上5つ以下の目標を記述している。また、各目標は授業の学修目標である卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を具体化したものであり、教育方法や成績評価方法・基準と対応させている。
3. 「成績評価基準」は、授業の学修目標である卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を具体化したものであり、到達目標ごとに3段階（「十分に到達できている」（S・A相当）・「一部は到達できている」（B・C相当）・「かなりの努力を要する」（F相当））で評価の基準を記述している。記述に際しては、基準として「何ができれば目標を達成したとみなされるのか」を段階ごとに記載してある。
4. 「成績評価方法」については、本学では学修意欲の増進の一要素として、授業内レポートや小テスト等多面的評価を行うことを強く推進している。また、到達目標や教育方法と対応させながら、数値等を用いた具体的な記述となっている。出席はするのが当然なので「出席点」という言葉は用いないようにしている。
5. 「授業区分」は、「遠隔科目」か「対面科目」かを明示している。
6. 「使用言語」は、授業で主に使用する言語について明示している。
7. 「授業スケジュール」は必ず1～15回、1～30回に分けてすべての授業計画を箇条書きで記述している。また、遠隔授業を実施する授業回についても明示している。
8. 「教育方法」は講義法やアクティブ・ラーニングなどの各回の授業方法や授業形態を明示している。
9. 「授業外学修」は、授業外学修の内容および必要時間数を記載している。
10. 「課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法」は、定期試験、レポート、授業内小テストに対して行う講評・解説などのフィードバック方法について明示している。
11. 「遠隔授業の実施方法」は、具体的な遠隔授業の実施方法を明示している。
12. 「教材（教科書）」は授業で使用する教科書を、「教材（参考資料）」は授業に関わる参考資料を記載している。
13. 「受講条件」は、事前または並行して履修が必要な科目や能力を記載している。
14. 「受講のルール」は受講生との約束事、受講のマナー、守られなかった場合の対応などを記載している。
15. 「学習上の助言」は効果的な学習のための助言を記載している。

授業計画書の公表方法	本学ホームページにポータルサイトのシラバスページへのリンクを設定している。 https://www.kuas.ac.jp/academics/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 単位授与の実施状況 各科目の到達目標及び成績評価の基準として、各科目 3 つ以上 5 つ以下の到達目標を設定し、到達目標ごとに 3 段階の成績評価基準（「十分に到達できている」（S・A 相当）・「一部は到達できている」（B・C 相当）・「かなりの努力を要する」（F 相当））を設定し、シラバスに明記している。基準として「何ができれば目標を達成したとみなされるのか」を段階ごとに記載している。また、現代リベラルアーツ科目（大学共通科目を含む）について、レポート、プレゼンテーション、コミュニケーション力、および情報リテラシーを評価する場合は、評価基準として共通の課題ルーブリックを用いている。 成績評価方法については、授業内レポートや小テスト等多面的評価を行うことを強く推進している。シラバスでは、到達目標や教育方法と対応させながら、数値等を用いた具体的な記述となっている。 以上のように、各科目であらかじめ設定された成績評価基準に従って、各学生の学修成果に基づき、厳密かつ適正に成績を評価し、単位授与を実施している。	
3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・成績評価の方法

成績評価は 100 点満点法により 60 点以上が合格、59 点以下が不合格である。

成績表記 素点		
合格	S	100～90
	A	89～80
	B	79～70
	C	69～60
	N	N
不合格	F	59～0

※ 記号「N」＝「認定」 単位互換等で認定された科目に「N」と記載。

・GPA の算出方法

S (90～100 点) = 4 ポイント、A (80～89 点) = 3 ポイント、B (70～79 点) = 2 ポイント、C (60～69 点) = 1 ポイント、F (59 点以下) = 0 ポイントとして、それに各単位数を掛けて加えた合計点を、履修登録科目の総単位数で割って計算する。

$$\text{GPA} = \frac{(4 \text{ ポイント} \times \text{S の科目の単位数合計}) + (3 \text{ ポイント} \times \text{A の科目の単位数合計}) + (2 \text{ ポイント} \times \text{B の科目の単位数合計}) + (1 \text{ ポイント} \times \text{C の科目の単位数合計}) + (0 \text{ ポイント} \times \text{F の科目の単位数合計})}{\text{総単位数 (履修登録科目の単位数)}}$$

計算時の対象科目は、履修登録をしたすべての科目とする。不合格科目も対象とし、分母に加算する。また、再履修した科目は全ての成績が対象となり、分母には延べ単位数が加算される。

ただし、教職課程・博物館学芸員課程に関する科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、留学によって修得した単位、学外での活動により認定された単位（評価が「N」となるもの）は除く。

入学後に履修登録したすべての科目の通算 GPA 値が成績表に表示され、学内における奨学金審査等で用いている。その際には、募集要項等に記載することとなっている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学ホームページ「教育情報の公開」ページで公開している。

https://www.kuas.ac.jp/wp-content/uploads/2024/12/2024_standard.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組

大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 知識・理解

- 1.1 核となる特定の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

- 2.1 適切な方法で収集した情報およびデータを活用できる。
- 2.2 多様な言語を用いて、他者と意思疎通を行うことができる。

3. 思考・判断・表現

- 3.1 修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。
- 3.2 自ら設定した主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

- 4.1 変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。
- 4.2 多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。

上記の大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、各学部学科のディプロマ・ポリシーを策定している。卒業要件については、学則並びに履修要項に、卒業単位数を修得すること等が明示されている。学部教授会においては、ディプロマ・ポリシーおよび卒業要件に基づき卒業判定を行っており、卒業判定を適切に行うための措置がなされ、適切な学位授与が行われている。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	本学ホームページ上でディプロマ・ポリシーを公開している。 大学全体 https://www.kuas.ac.jp/about/outline/principles/ 経済経営学部 経済学科のディプロマ・ポリシー https://www.kuas.ac.jp/academics/economics-and-business-administration/economics/ 経済経営学部 経営学科のディプロマ・ポリシー https://www.kuas.ac.jp/academics/economics-and-business-administration/business/ 人文学部 心理学科のディプロマ・ポリシー https://www.kuas.ac.jp/academics/humanities/psychology/ 人文学部 歴史文化学科のディプロマ・ポリシー https://www.kuas.ac.jp/academics/humanities/japanese-history-and-cultural-studies/ バイオ環境学部 生物環境科学科のディプロマ・ポリシー https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioresource/ バイオ環境学部 応用生命科学科のディプロマ・ポリシー https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/appliedbio/ バイオ環境学部 バイオサイエンス学科のディプロマ・ポリシー（令和7年度募集停止） https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioscience/ バイオ環境学部 バイオ環境デザイン学科のディプロマ・ポリシー（令和7年度募集停止） https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioenvironmental/ バイオ環境学部 食農学科のディプロマ・ポリシー（令和7年度募集停止） https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/agriculture/ 健康医療学部 看護学科のディプロマ・ポリシー https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/nursing/ 健康医療学部 言語聴覚学科のディプロマ・ポリシー https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/speech-and-hearing/ 健康医療学部 健康スポーツ学科のディプロマ・ポリシー https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/health-and-sports/ 工学部 機械電気システム工学科のディプロマ・ポリシー https://www.kuas.ac.jp/academics/engineering/mechanical-and-electrical-system-engineering/
------------------------------	--

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	京都先端科学大学
設置者名	学校法人 永守学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kuas.ac.jp/wp-content/uploads/2025/05/9e0da961be761c257f347c548eb77554.pdf
収支計算書 又は損益計算書	https://www.kuas.ac.jp/wp-content/uploads/2025/05/9dcfdc7acab17e91b9d252523fc94bf9.pdf https://www.kuas.ac.jp/wp-content/uploads/2025/05/e0ad7e41fa3e70fb3186a056f4eac102.pdf
財産目録	https://www.kuas.ac.jp/wp-content/uploads/2025/05/7b609c3c6e5270ae89ff613ba445a6e4.pdf
事業報告書	https://www.kuas.ac.jp/wp-content/uploads/2025/05/327461d7267933e96357e5c7f2037b7c.pdf
監事による 監査報告 (書)	https://www.kuas.ac.jp/wp-content/uploads/2025/05/eeaa656e760c9c77398cb75c7e05bff4.pdf

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：_____）	対象年度：_____）
公表方法：_____	
中長期計画（名称：学校法人永守学園 第2期中期経営計画 対象年度：2025 年度～2029 年度の5年間）	
公表方法： https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/cyukei	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：<https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/evaluation>

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：<https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/evaluation>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済経営学部 経済学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/economics-and-business-administration/economics/
（概要） 経済学を中心に経営学・法学分野の科目も配し、ビジネスパーソンとして必要な幅広い教養と経済学の体系的な学修を通じて習得した広い視野をもって社会で活躍できる人材の育成を教育の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/economics-and-business-administration/economics/
（概要） 1. 知識・理解 1.1 経済学とその関連分野の学修を通じて、社会をとりまく諸現象に関する歴史的経緯や法則性を理解し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。 2. 技能 2.1 社会人として必要な幅広い教養と経済学の専門知識を有し、それを活用できる。 2.2 経済学の専門教育とキャリア教育から得た知識・意識を通じて、自らの社会人としてのキャリアデザインを長期的視野に立って描くことができる。 3. 思考・判断・表現 3.1 経済学とその関連分野の学修を通じて得た知識をもとに、現代の経済社会を取り巻く諸課題について、豊かな想像力をもって複眼的な視野から分析することができる。 3.2 自ら設定した経済分野における主題について、経済学で用いられる適切な手法を用いて結論を導き、それを論理的かつ客観的に説明することができる。 4. 関心・意欲・態度 4.1 経済学分野の専門的知見に基づいて、グローバル社会が直面する経済問題の解決に向け、他者と協調して行動をとることができる。 4.2 経済学の専門教育から得られた知見に基づいて、よりよい社会の構築に向けて的確な判断ができ、それに積極的に参画することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/economics-and-business-administration/economics/
（概要） 1. 教育課程編成 1.1 教育課程として、学科の専門科目を配置します。 1.2 「入門科目」では、経済学の学修に必要な基礎的な知識と技能を修得することを目的とし、それに必要な経済学分野の基幹科目および一般的な科目を配置します。 1.3 「展開科目」と「演習科目」では、「入門科目」で得た知識と技能を基にしたより専門性の高い科目を配置し、経済学の知識を駆使した高度な問題解決力を育成します。

1.4 両学科共通の科目区分として、「キャリア科目」と「法学科目」を配置します。これらの科目区分を通じて、広く社会科学の学修に共通して必要とされる基礎的な知識と技能を育成します。

2. 学修方法・学修過程

(学修方法)

2.1 学科の教育課程では、少人数指導の下で、経済学分野における各々の学問的関心に応じた理論体系の学修、およびその実社会との関連の考察を行い、それを成果物にまとめます。

(学修過程)

2.2.1 学科専門科目では、「入門科目」から「展開科目」へと学修を進めることで、初歩から段階的かつ体系的に経済学を学びます。

2.2.2 1年生では、「入門科目」を学修することで、経済学の基礎知識を得るとともに、経済学の目的と意義を理解します。

2.2.3 2年生からは「キャリア科目」、「法学科目」および「展開科目」の学修を開始することで、より高度な経済学の理論に基づく問題解決力を養う学修を行います。

2.2.4 3年生からの「演習科目」では、少人数のゼミナールにおいて各々の関心に応じて経済学に関する専門分野における学修を行います。

2.2.5 4年生では、各々の設定した経済分野に関するテーマについてゼミナールにおいて指導を受けながら卒業研究を行い、課題発見力・解決力を養う学修を行います。

(学修過程)

2.3 ビジネスパーソンとして社会の第一線で活躍できる能力を養うべく、両学科共通のプログラムと学科独自のコース（経済理論、経済政策）で段階的に学修を進め、経済学の専門的知見に基づく主体性および問題解決力を育みながら卒業論文を作成します。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準はシラバスに示され、到達目標の達成度を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

(概要) 教育目的

経済学を中心に経営学・法学分野の科目も配し、ビジネスパーソンとして必要な幅広い教養と経済学の体系的な学修を通じて習得した広い視野をもって社会で活躍できる人材の育成を教育の目的とする。

本学科の教育目的に即した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目についての基礎的な知識や技能を有し、自分の考えを伝えられる表現力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲と姿勢、コミュニケーションを効果的に図ることによって相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能

・高等学校で履修する国語、英語、地理歴史、数学などについての基礎的な知識を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

・経済や社会について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・経済学に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- ・知識の修得と活用のために、多様な人々と協働して取り組める。

学部等名 **経済経営学部 経営学科**

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/economics-and-business-administration/business/>

（概要）

経営学を中心に経済学・法学分野の科目も配し、ビジネスパーソンとして必要な幅広い教養と実体験重視の学修を通じて、社会人として自立できる人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/economics-and-business-administration/business/>

（概要）

1. 知識・理解

1.1 経営学とその関連分野の学修を通じて社会をとりまく諸現象に関する歴史的経緯や法則性を理解し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

2.1 社会人として必要な幅広い教養と経営学の専門知識を有し、それを活用できる。

2.2 経営学の専門教育とキャリア教育から得た知識・意識を通じて、社会人としてのキャリアデザインを長期的視野に立って描くことができる。

3. 思考・判断・表現

3.1 経営学とその関連分野の学修を通じて得た知識をもとに、複眼的な視野で、ならびに理論と実践の融合の観点から経営上の諸課題を分析することができる。

3.2 自ら設定した経営分野における主題について、経営学で用いられる適切な手法を用いて結論を導き、それを論理的かつ客観的に説明することができる。

4. 関心・意欲・態度

4.1 企業を含む組織がグローバル社会において直面する諸課題に関心を示し、その解決に向けて経営学分野の専門的知見に基づいて行動することができる。

4.2 経営学分野の専門的知見に基づいて、企業を含む組織の活動へ積極的に参画することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/economics-and-business-administration/business/>

（概要）

1. 教育課程編成

1.1 教育課程として、学科の専門科目を配置します。

1.2 「入門科目」では、経営学の学修に必要な基礎的な知識と技能を修得することを目的とし、それに必要な経営学分野の基幹科目および一般的な科目を配置します。

1.3 「展開科目」と「演習科目」では、「入門科目」で得た知識と技能を基にしたより専門性の高い科目を配置し、経営学の知識を駆使した高度な問題解決力を育成します。

1.4 両学科共通の科目区分として、「キャリア科目」と「法学科目」を配置します。これらの科目区分を通じて、広く社会科学の学修に共通して必要とされる基礎的な知識と技能

を育成します。

2. 学修方法・学修過程

(学修方法)

2.1 学科の教育課程では、経営学の各分野における理論体系やその実社会との関連性について学修します。

(学修過程)

2.2.1 学科専門科目では、「入門科目」から「展開科目」へと学修を進めることで、段階的かつ体系的に経営学を学びます。

2.2.2 1年生では、「入門科目」を学修することで、経営学の基礎知識を得るとともに、経営学の目的と意義を理解します。

2.2.3 2年生からは、「キャリア科目」、「法学科目」および「展開科目」の学修を開始することで、より高度な経営学の理論に基づく問題解決力を養う学修を行います。

2.2.4 3年生からの「演習科目」では、少人数のゼミナールにおいて各々の関心に応じて経営学に関する専門分野における学修を行います。

2.2.5 4年生では、各々の設定した経営分野に関するテーマについてゼミナールにおいて指導を受けながら卒業研究を行い、課題発見力・解決力を養う学修を行います。

(学修過程)

2.3 ビジネスパーソンとして社会の第一線で活躍できる能力を養うべく、両学科共通のプログラムと学科独自のコース（起業・経営戦略、会計、国際）で段階的に学修を進め、経営学の専門的知見に基づく主体性および問題解決力を育みながら卒業論文を作成します。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準はシラバスに示され、到達目標の達成度を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

教育目的

経営学を中心に経済学・法学分野の科目も配し、ビジネスパーソンとして必要な幅広い教養と実体験重視の学修を通じて、社会人としての自立できる人材の育成を目的とする。

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲、活動に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校で履修する国語、英語、地理歴史、数学などについての基礎的な知識を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・企業やショップの経営について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・経営学に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。

・知識の修得と実践のために、多様な人々と協働して取り組める。

学部等名 人文学部 心理学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/humanities/psychology/>

（概要）

心理学及び周辺分野の基礎的知識と技能を十分に体得し、それを企業や心理臨床などの現場において柔軟に応用、問題解決できる能力を持った人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/humanities/psychology/>

（概要）

1. 知識・理解

1.1 心理学・社会学に関する幅広い教養と専門的知識を身に付け、その豊かな人間性を変容する現代社会のために活用することができる。

2. 技能

2.1 優れた文章読解能力を身に付け、自らの思考を口頭および文章で他者に伝えることができる。

2.2 心理学や社会学に関する知識を活用して、他者と適切にコミュニケーションをとり、互いの理解を深めることができる。

3. 思考・判断・表現

3.1 統計や実験、調査結果の分析を通じて身に付けた論理的思考力をもとに、社会におけるさまざまな問題に対処することができる。

3.2 自ら設定した主題について、文献調査や実験などを通して収集した資料を、客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

4.1 人と社会に対する関心を強く持ち、さまざまな問題の解決に能動的に取り組むことができる。

4.2 現状の課題に対して、協働して取り組み、集団のなかで自分の役割を果たすことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/humanities/psychology/>

（概要）

1. 教育課程編成

1.1 人間を心理と社会の両面から学び、学科の学修を活かした進路に進むために、臨床心理学・心理学、社会・産業の3つのプログラムを設置します。

1.2 専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成し、各学科の学修を活かした進路に進むために、学科専門科目には、基礎的事項を学ぶ基礎科目、より高度な内容を学ぶ展開科目を設けます。

1.3 公認心理師、認定心理士、社会調査士など、専門職の資格を取得するために必要な科目を置きます。

2. 学修方法・学修過程

（学修方法）

2.1 4年間の学修課程では、教員が学生に寄り添って行う指導の下で、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、体験学修およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

(学修過程)

2.2.1 講義形式科目で各分野の知識を学び、実験や実習形式科目で実践的な経験を積み、演習形式科目で情報伝達能力を高めます。

2.2.2 1年生から2年生にかけて学ぶ基礎科目で、各プログラムの基礎的な知識を横断的に学び、また2年生において、心理学や社会学の実験や調査の方法を学ぶため、各プログラムが提供する実験・演習科目を選択的に受講します。

2.2.3 3年生・4年生で学ぶ少人数の専門演習においてきめ細やかな指導を受けながら、一定水準以上の卒業論文を作成します。

2.2.4 演習などにおける集団作業を通じて、集団のなかで自分の役割を果たすことができる協働力を涵養します。

2.2.5 大学での学びの意義づけも重視して、卒業後の人生を見据えたキャリア教育を学修します。

(学修過程)

2.3 心理学科では、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力の修得を目的として、両学科で設置されるプログラムの下で段階的に学修しながら卒業論文を作成します。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準はシラバスに示され、到達目標の達成度が評価されます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

教育目的

心理学及び周辺分野の基礎的知識と技能を十分に体得し、それを企業や心理臨床などの現場において柔軟に応用、問題解決できる能力を持った人材を育成する。

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲、活動に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能

・高等学校で履修する国語、英語、地理歴史、数学などについての基礎的な知識を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

・人間の心理・行動・コミュニケーションについて考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・心理学に強い興味・関心があり、未知のことを主体的に探究する強い意欲を持つ。
・心理学実験や発表などを、多様な人々と協働して取り組める。

学部等名 人文学部 歴史文化学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/humanities/japanese-history-and-cultural-studies/
（概要） 歴史学及び周辺分野の基礎的知識と調査研究技能を十分に体得し、それを実社会において問題解決に活用できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/humanities/japanese-history-and-cultural-studies/
（概要） 1. 知識・理解 1.1 歴史文化に関する幅広い教養と専門的知識を身に付け、その豊かな人間性を変容する現代社会のために活用することができる。 2. 技能 2.1 優れた文章読解能力を身に付け、自らの思考を口頭および文章あるいはデジタル媒体で他者に伝えることができる。 2.2 発表や聞きとり調査の経験などを活用して、他者と適切にコミュニケーションをとり、互いの理解を深めることができる。 3. 思考・判断・表現 3.1 歴史文化に関する専門的学修を通じて獲得した知識・思考方法で、社会における問題を発見し、必要な情報を収集・分析し、対処することができる。 3.2 自ら設定した主題について、文献調査やフィールドワークなどを通して収集した資料を、客観的に分析しながら、批判的に考察できる。 4. 関心・意欲・態度 4.1 現代社会やその歴史文化に対する関心を強く持ち、さまざまな問題の解決に能動的に取り組むことができる。 4.2 現状の課題に対して、協働して取り組み、集団のなかで自分の役割を果たすことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/humanities/japanese-history-and-cultural-studies/
（概要） 1. 教育課程編成 1.1 学科の学修を活かした進路に進むため、歴史文化を多様な視点から学びます。 1.2 専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成するために、学科専門科目には、基礎的事項を学ぶ基礎科目、より高度な内容を学ぶ展開科目を設けます。 1.3 教職・学芸員という専門職の資格を取得するための課程を設置します。 2. 学修方法・学修過程 （学修方法） 2.1 4年間の学修課程では、教員が学生に寄り添って行う指導の下で、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、体験学修およびキャリア学修も連動させながら実践的

かつ能動的に学修します。

(学修過程)

2.2.1 講義形式科目で各分野の知識を学び、実習形式科目で実践的な経験を積み、演習形式科目で情報伝達能力を高めます。

2.2.2 1年生秋から2年生春にかけて学ぶ必修の授業で、基礎的な知識を横断的に学び、また2年生から歴史文化学地域探究演習を複数学ぶことで、複眼的な視点を涵養しながら、歴史文化学基礎ゼミの選択を行います。

2.2.3 2年生で学ぶ基礎ゼミにおいて、各分野の論文や資料読解の基礎力を高め、3年生・4年生で学ぶ少人数の専門ゼミにおいて、きめ細やかな指導を受けながら、一定水準以上の卒業論文を作成します。

2.2.4 演習などにおける集団作業を通じて、集団のなかで自分の役割を果たすことができる協働力を涵養します。

2.2.5 大学での学びの意義づけも重視して、卒業後の人生を見据えたキャリア教育を学修します。

(学修過程)

2.3 歴史文化学科では、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力の修得を目的として、段階的に学修しながら卒業論文を作成します。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準はシラバスに示され、到達目標の達成度が評価されます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

教育目的

歴史学及び周辺分野の基礎的知識と調査研究技能を十分に体得し、それを実社会において問題解決に活用できる人材を育成する。

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲、活動に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能

・高等学校で履修する国語、英語、地理歴史などについての基礎的な知識を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

・歴史文化について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・歴史文化に強い興味・関心があり、未知のことを主体的に探究する強い意欲を持つ。
・発表やフィールドワークなどを、多様な人々と協働して取り組める。

学部等名 バイオ環境学部 生物環境科学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioresource/
（概要） 生物環境科学の知識や技術に基づき、人類や地球の直面する課題に対し科学的に対処できる幅広い視野および判断力を備えた「生物環境科学技術者・研究者」を養成する。具体的には、生態学的知識、環境分析技術、環境再生、農産物の栽培・育種技術などを講義・実験・フィールド実習等を通じて幅広く教授することで、人と自然の共生に貢献できる環境専門家や農業技術者、研究者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioresource/
（概要） 生物環境科学科は、環境、生物、農業、地域共生分野に関する実学的教育を通じて、グローバル化社会において自らの力で生き抜き、社会に貢献し続ける社会人の育成を教育の目的とします。
1. 知識・理解 1.1 環境、生物、農業、地域共生分野に関する知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。
2. 技能 2.1 環境、生物、農業、地域共生分野に関する技術を実験・実習・フィールドワークを通じて修得し、それらの技術を用いて、必要な情報を収集し、活用できる。 2.2 上記で収集した情報をまとめ、レポートや口頭発表を通じて他者に分かりやすく情報発信できる。また、外国語による基本的なコミュニケーション能力が身についている。
3. 思考・判断・表現 3.1 環境、生物、農業、地域共生分野に関して、修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。 3.2 上記分野に関して自らが主題を設定し、文献調査、フィールド調査、実験等で収集した情報に基づき、論理的・客観的・批判的な分析と考察ができる。
4. 関心・意欲・態度 4.1 環境、生物、農業、地域共生分野に関する学びを通じ、人間活動と環境の調和の重要性を意識しながら、変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、専門技能と変化に対応できる専門知識・教養で、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。 4.2 上記分野の諸問題に対し、多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として問題を解決するために行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioresource/

(概要) 1. 教育課程編成 1.1 現代リベラルアーツ科目および生物環境科学分野からなる基礎科目、専門基礎科目を学修することによって、柔軟に思考し、多角的に事象を見て、的確な判断を下すことができる力を育成します。 1.2 生物環境科学分野からなる専門基礎科目および専門科目（専門知識と専門技能）を学修させ、多角的に真理を探究する力を育成します。 1.3 専門科目（専門知識と専門技能）を学修後、専攻演習・卒業研究を通じて、問題解決を導く力を育成し、人々の生活の向上と人間社会の発展に貢献しようとする姿勢を養成します。 2. 学修方法・学修過程 (学修方法) 2.1 4年間の教育課程では、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、実験・実習およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。 (学修過程) 2.2.1 基礎科目、専門基礎科目および専門科目としての実験・実習を通じて、コミュニケーション力、協働力、課題発見力やリーダーシップを育む学修を行います。 2.2.2 1年次に自然科学に関する科目を通じて基礎知識を学修し、また「生物環境科学概論」において、将来の方向性を模索します。 2.2.3 2年次以降、実験・実習科目を通じて、生物環境科学の専門性を段階的に養います。 2.2.4 4年次では、1年次から3年次までに学んだ知識と技術を基にして、卒業研究と専攻演習を行い、生物環境科学領域の発展に積極的に関与できる力を育む学修を行います。 2.2.5 卒業研究やその他実習科目などでの地域との連携を通じて、社会の一員として、社会の課題の解決を図る力を育む学修を行います。 3. 学修成果の評価 3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。 3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。	
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）	
教育目的 生物環境科学の知識や技術に基づき、人類や地球の直面する課題に対し科学的に対処できる幅広い視野および判断力を備えた「生物環境科学技術者・研究者」を養成する。具体的には、生態学的知識、環境分析技術、環境再生、農産物の栽培・育種技術などを講義・実験・フィールド実習等を通じて幅広く教授することで、人と自然の共生に貢献できる環境専門家や農業技術者、研究者を養成する。 本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力と英語力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲、活動に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。 1.知識・技能 ・高等学校で履修する国語、英語、数学、理科などについての基礎的な知識を持つ。	

2.思考力・判断力・表現力

・自然環境やその現象、農作物の栽培と地域共生について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3.主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・環境の保全や再生、作物の生産、地域共生などに強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。

・知識の修得と活用のために、多様な人々と協働して取り組める。

・国際人としての教養を身につけ、日本人学生は英語を、留学生は日本語を中心とした多様な言語力の向上を目指す意欲を持つ。

学部等名 バイオ環境学部 応用生命科学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/appliedbio/>

（概要）

応用生命科学的知識や技術に基づき、人類や地球の直面する課題に対し科学的に対処できる幅広い視野および判断力を備えた「グリーンバイオ技術者・研究者」を養成する。具体的には、微生物、昆虫、植物、動物等の分子・遺伝子・細胞レベルから、食品加工、発酵・醸造ならびに食品の機能性および安全性に至る広範な応用生命科学領域において、幅広い知識や技術を講義・演習・実験等を通じて教授することで、環境と人々の健康に貢献できる技術者、研究者を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/appliedbio/>

（概要）

応用生命科学科は、分子、細胞レベルの生命科学、食品の開発・製造、環境、健康分野に関する実学的教育を通じて、グローバル化社会において自らの力で生き抜き、社会に貢献し続ける社会人の育成を教育の目的とします。

1. 知識・理解

1.1 分子、細胞レベルの生命科学、食品の開発・製造、環境、健康分野に関する知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

2.1 分子、細胞レベルの生命科学、食品の開発・製造、環境、健康分野に関する技術を実験・実習・フィールドワークを通じて修得し、それらの技術を用いて、必要な情報を収集し、活用できる。

2.2 自らの知識や意見を文章や発表などで発信し、他者と意思疎通を行うことができる。あわせて、外国語によるコミュニケーション能力が身についている。

3. 思考・判断・表現

3.1 分子、細胞レベルの生命科学、食品の開発・製造、環境、健康分野に関して、修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現することができる。

3.2 上記分野に関して自らが主題を設定し、文献調査、実験等で収集した情報に基づき、論理的・客観的・批判的な分析と考察ができる。

4. 関心・意欲・態度

- 4.1 分子、細胞レベルの生命科学、食品の開発・製造、環境、健康分野に対して、よりよい人間社会の形成や発展に活かそうとする意欲を持ち、専門技能と変化に対応できる専門知識・教養で、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。
- 4.2 多様な他者と協働しながら、上記分野の諸問題に関心を示し、自律的な社会人としてそれらの問題を解決するために行動できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/appliedbio/>

（概要）

1. 教育課程編成

1.1 現代リベラルアーツ科目および応用生命科学分野からなる基礎科目、専門基礎科目を学修することによって、柔軟に思考し、多角的に事象を見て、的確な判断を下すことができる力を育成します。

1.2 応用生命科学分野からなる専門基礎科目および専門科目（専門知識と専門技能）を学修させ、多角的に真理を探究する力を育成します。

1.3 専門科目（専門知識と専門技能）を学修後、専攻演習・卒業研究を通じて、問題解決を導く力を育成し、人々の生活の向上と人間社会の発展に貢献しようとする姿勢を養成します。

2. 学修方法・学修過程

（学修方法）

2.1 4年間の教育課程では、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、実験・実習およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

（学修過程）

2.2.1 基礎科目、専門基礎科目および専門科目としての実験・実習を通じて、コミュニケーション力、協働力、課題発見力やリーダーシップを育む学修を行います。

2.2.2 1年次に応用生命科学に関する必修科目を通じて基礎知識を学修し、また「応用生命科学科概論」において、将来の方向性を模索します。

2.2.3 2年次以降、実験・実習科目を通じて、応用生命科学の専門性を段階的に養います。

2.2.4 4年次では、1年次から3年次までに学んだ知識と技術を基にして、卒業研究と専攻演習を行い、応用生命科学領域の発展に積極的に関与できる力を育む学修を行います。

2.2.5 卒業研究やその他実習科目などでの地域との連携を通じて、社会の一員として、社会の課題の解決を図る力を育む学修を行います。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

教育目的

応用生命科学の知識や技術に基づき、人類や地球の直面する課題に対し科学的に対処できる幅広い視野および判断力を備えた「グリーンバイオ技術者・研究者」を養成する。具体的には、微生物、昆虫、植物、動物等の分子・遺伝子・細胞レベルから、食品加工、発酵・醸造ならびに食品の機能性および安全性に至る広範な応用生命科学領域において、幅広い知識や技術を講義・演習・実験等を通じて教授することで、環境と人々の健康に貢献できる技術者、研究者を養成する。

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力と英語力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲、活動に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1.知識・技能

- ・高等学校で履修する国語、英語、数学、理科などについての基礎的な知識を持つ。

2.思考力・判断力・表現力

- ・生命を含む自然や自然現象について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3.主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・分子、細胞レベルの生命科学、食品の開発・製造、環境、健康分野に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- ・知識の修得と活用のために、多様な人々と協働して取り組める。
- ・国際人としての教養を身につけ、日本人学生は英語を、留学生は日本語を中心とした多様な言語力の向上を目指す意欲を持つ。

学部等名 バイオ環境学部 バイオサイエンス学科（令和7年度募集停止）

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioscience/>

（概要）

環境と調和したグリーンバイオ技術の習得を教育目的とする。学生は動物、植物、昆虫、微生物、食品、遺伝子の領域におけるバイオの知識や技術を講義や実験を通じて広く学び、環境と人々の健康に貢献できるバイオ技術者を目指す。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioscience/>

（概要）

バイオサイエンス学科は、生命科学、食品、環境、健康分野に関する実学的教育を通じて、グローバル化社会において自らの力で生き抜き、社会に貢献し続ける社会人の育成を教育の目的とします。

1. 知識・理解

1.1 生命科学、食品、環境、健康分野に関する知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

- 2.1 生命科学、食品、環境、健康分野に関する技術を実験・実習・フィールドワークを通じて修得し、それらの技術を用いて、必要な情報を収集し、活用できる。
- 2.2 自らの知識や意見を文章や発表などで発信し、他者と意思疎通を行うことができる。あわせて、外国語によるコミュニケーション能力が身についている。

3. 思考・判断・表現

- 3.1 生命科学、食品、環境、健康分野に関して、修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現することができる。
- 3.2 上記分野に関して自らが主題を設定し、文献調査、実験等で収集した情報に基づき、論理的・客観的・批判的な分析と考察ができる。

4. 関心・意欲・態度

- 4.1 生命科学、食品、環境、健康分野に対して、よりよい人間社会の形成や発展に活かそうとする意欲を持ち、専門技能と変化に対応できる専門知識・教養で、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。
- 4.2 多様な他者と協働しながら、上記分野の諸問題に関心を示し、自律的な社会人としてそれらの問題を解決するために行動できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioscience/>

（概要）

1. 教育課程編成

- 1.1 大学共通コア科目およびバイオサイエンス分野からなる基礎科目、専門基礎科目を学修することによって、柔軟に思考し、多角的に事象を見て、的確な判断を下すことができる力を育成します。
- 1.2 バイオサイエンス分野からなる専門基礎科目および専門科目（専門知識と専門技能）を学修させ、多角的に真理を探究する力を育成します。
- 1.3 専門科目（専門知識と専門技能）を学修後、専攻演習・卒業研究を通じて、問題解決を導く力を育成し、人々の生活の向上と人間社会の発展に貢献しようとする姿勢を養成します。

2. 学修方法・学修過程

（学修方法）

- 2.1 4年間の教育課程では、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、実験・実習およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

（学修過程）

- 2.2.1 基礎科目、専門基礎科目および専門科目としての実験・実習を通じて、コミュニケーション力、協働力、課題発見力やリーダーシップを育む学修を行います。
- 2.2.2 1年次にバイオサイエンスに関する必修科目を通じて基礎知識を学修し、また「バイオサイエンス概論」において、将来の方向性を模索します。
- 2.2.3 2年次以降、実験・実習科目を通じて、バイオサイエンスの専門性を段階的に養います。
- 2.2.4 4年次では、1年次から3年次までに学んだ知識と技術を基にして、卒業研究と専攻演習を行い、バイオサイエンス領域の発展に積極的に関与できる力を育む学修を行います。
- ・2.2.5 卒業研究や実践プロジェクト科目での地域との連携を通じて、社会の一員として、社会の課題の解決を図る力を育む学修を行います。

3. 学修成果の評価

- 3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設

定される到達目標の達成度を示すものであり、バイオサイエンス学科のアセスメント・ポリシーに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

学部等名 **バイオ環境学部 バイオ環境デザイン学科**（令和7年度募集停止）

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioenvironmental/>

（概要）

農・森林環境、水環境、都市環境などの共生空間における物質循環や動態とその景観に関する科学・技術に基づく環境デザイン力の養成を教育目的とする。学生は生態学的知識、環境分析技術、環境再生技術などを講義や実験、フィールド実習を通じて学び、人と自然の共生に貢献できる環境専門家やランドスケープデザイナーを目指す。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioenvironmental/>

（概要）

バイオ環境デザイン学科は、環境、生物、水質、造園分野に関する実学的教育を通じて、グローバル化社会において自らの力で生き抜き、社会に貢献し続ける社会人の育成を教育の目的とします。

1. 知識・理解

1.1 環境、生物、水質、造園分野に関する知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

2.1 環境、生物、水質、造園分野に関する技術を実験・実習・フィールドワークを通じて修得し、それらの技術を用いて、必要な情報を収集し、活用できる。

2.2 上記で収集した情報をまとめ、レポートや口頭発表を通じて他者に分かりやすく情報発信できる。また、外国語による簡単なコミュニケーション能力が身についている。

3. 思考・判断・表現

3.1 環境、生物、水質、造園分野に関して、修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。

3.2 上記分野に関して自らが主題を設定し、文献調査、フィールド調査、実験等で収集した情報に基づき、論理的・客観的・批判的な分析と考察ができる。

4. 関心・意欲・態度

4.1 環境、生物、水質、造園分野に関する学びを通じ、人間活動と環境の調和の重要性を意識しながら、変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、専門技能と変化に対応できる専門知識・教養で、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。
4.2 上記分野の諸問題に対し、多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として問題を解決するために行動できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/bioenvironmental/>

（概要）

1. 教育課程編成

1.1 大学共通コア科目およびバイオ環境デザイン分野からなる基礎科目、専門基礎科目を学修することによって、柔軟に思考し、多角的に事象を見て、的確な判断を下すことができる力を育成します。

1.2 バイオ環境デザイン分野からなる専門基礎科目および専門科目（専門知識と専門技能）を学修させ、多角的に真理を探究する力を育成します。

1.3 専門科目（専門知識と専門技能）を学修後、専攻演習・卒業研究を通じて、問題解決を導く力を育成し、人々の生活の向上と人間社会の発展に貢献しようとする姿勢を養成します。

2. 学修方法・学修過程

（学修方法）

2.1 4年間の教育課程では、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、実験・実習およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

（学修過程）

2.2.1 基礎科目、専門基礎科目および専門科目としての実験・実習を通じて、コミュニケーション力、協働力、課題発見力やリーダーシップを育む学修を行います。

2.2.2 1年次に自然科学に関する科目を通じて基礎知識を学修し、また「バイオ環境デザイン原論」において、将来の方向性を模索します。

2.2.3 2年次以降、実験・実習科目を通じて、バイオ環境デザインの専門性を段階的に養います。

2.2.4 4年次では、1年次から3年次までに学んだ知識と技術を基にして、卒業研究と専攻演習を行い、バイオ環境デザイン領域の発展に積極的に関与できる力を育む学修を行います。

2.2.5 卒業研究や実践プロジェクト科目での地域との連携を通じて、社会の一員として、社会の課題の解決を図る力を育む学修を行います。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、食農学科のアセスメント・ポリシーに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

--

学部等名 バイオ環境学部 食農学科 （令和7年度募集停止）
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/agriculture/
（概要） 環境に配慮し、地域の特長を生かした農産物の生産や安全な食品の加工技術の習得を教育目的とする。学生は農産物の栽培育種、食品加工、発酵・醸造、食品の栄養価や安全性をバイオの知識と共に講義や実習を通じて学び、地域の活性化に貢献できる食と農の専門家を目指す。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/agriculture/
（概要） 食農学科は、栽培を中心とした農と加工を中心とした食に関する実学重視の教育を通じて、グローバル化社会において自らの力で生き抜き、社会に貢献し続ける社会人の育成を教育の目的とします。
1. 知識・理解 1.1 農業・発酵醸造・食品加工に関する知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。
2. 技能 2.1 農業・発酵醸造・食品加工に関する技術を実験・実習・フィールドワークを通じて修得し、技術を適切に活用できます。加えて、情報収集力も講義を通じて修得し、適切な情報を得て活用できる。 2.2 日本語を用いて、自らの知識や意見を口頭あるいは文章で適切に伝えることができる。あわせて、外国語での簡単なコミュニケーション能力が身についている。
3. 思考・判断・表現 3.1 農業・発酵醸造・食品加工に関して、修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現することができる。 3.2 上記分野に関わる主題を自ら設定し、収集した資料の客観的な分析を通して、論理的、批判的に考察し判断することができる。
4. 関心・意欲・態度 4.1 変容するグローバル社会の諸問題、特に農と食という人間の命の根本にかかわる分野に対して、環境との調和という意識を持ち、継続的に関心を示し、専門技能と変化に対応できる専門知識・教養で、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。 4.2 多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として責任ある行動ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/bioenvironmental-sciences/agriculture/

(概要) 1. 教育課程編成 1.1 大学共通コア科目および食農分野からなる基礎科目、専門基礎科目を修得することによって、柔軟に思考し、多角的に事象を見て、的確な判断を下すことができる力を育成します。 1.2 食農分野からなる専門基礎科目および専門科目（専門知識と専門技能）を修得させ、多角的に真理を探究する力を育成します。 1.3 専門科目（専門知識と専門技能）を修得後、専攻演習・卒業研究を通じて、問題解決を導く力を育成し、人々の生活の向上と人間社会の発展に貢献しようとする姿勢を養成します。 2. 学修方法・学修過程 (学修方法) 2.1 4年間の教育課程では、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、実験・実習およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。 (学修過程) 2.2.1 基礎科目、専門基礎科目および専門科目としての実験・実習を通じて、コミュニケーション力、協働力、課題発見力やリーダーシップを育む学修を行います。 2.2.2 1年次に食農に関する科目を通じて基礎知識を学修し、また「食農概論」において、将来の方向性を模索します。 2.2.3 2年次以降、実験・実習科目を通じて、食農の専門性を段階的に養います。 2.2.4 4年次では、1年次から3年次までに学んだ知識と技術を基にして、卒業研究と専攻演習を行い、食農領域の発展に積極的に関与できる力を育む学修を行います。 2.2.5 卒業研究や実践プロジェクト科目での地域との連携を通じて、社会の一員として、社会の課題の解決を図る力を育む学修を行います。 3. 学修成果の評価 3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、食農学科のアセスメント・ポリシーに従って多様な方法で学修成果を評価します。 3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。 入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

学部等名 健康医療学部 看護学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/nursing/

(概要) 人間を総合的に捉え、尊重し、対象者に適した看護を実践するために必要な知識・技術と豊かな人間性、自律的に学び続ける力を備え、対象者の健康回復・増進を図るために主体的に考え行動できる看護職者の育成を目指す。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/nursing/
(概要) 1. 知識・理解 1.1 看護職者として必要な専門的知識・技術を他領域の知識と関連づけながら修得し、看護分野における諸問題を解決するために活用できる。 2. 技能 2.1 看護職者として、必要な情報およびデータを適切な方法を用いて収集し、活用できる。 2.2 対象児・者と信頼関係を築き、適切な看護ケアを安全で効果的に実践できる技術を身につけ、問題を解決するための方策を立て、実践することができる。 3. 思考・判断・表現 3.1 看護学分野に関して修得した知識、技能ならびに経験を活かして、自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。 3.2 自ら設定した看護学分野の主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、建設的に考察できる。 4. 関心・意欲・態度 4.1 人々の生命・生活を尊重し愛情を持って理解しようとする人間性と、倫理観に基づき、知識や技術の研鑽に努め、常に向上心を持って、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。 4.2 自己研鑽に励むとともに、チームやグループ内で多様な職種に働きかけ、協働し、目標に向かって自律的な職業人として行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/nursing/
(概要) 1. 教育課程編成 1.1 職業人としての基礎力、人間性および倫理観を養い、看護職者としての能力を育成するため、教育課程として「現代リベラルアーツ科目」「専門基礎分野」「専門分野」を配置します。 1.2 職業人としての教養、基礎学力・技能、語学力、協調性を修得することを目的に、「現代リベラルアーツ科目」を配置します。 1.3 看護職者としてあらゆる健康レベルにある対象児・者にふさわしい看護が実践できる能力を育成するため、専門分野として「看護の基礎」「看護の実践」「看護の発展」を系統的に配置します。 2. 学修方法・学修過程 （学修方法） 2.1 4年間の教育課程では、各科目を理論的に学修するだけでなく、実習およびキャリア学修も連動させながら、実践的かつ能動的に学修します。 （学修過程）

- 2.2.1 専門基礎分野科目では健康の回復・維持・増進を一体的に捉えるために必要となる基礎的知識を学修します。
- 2.2.2 看護の基礎科目では看護実践能力を身に付けるための基盤となる科目を配置し、より専門的な科目の履修につなげる内容とし、人々の成長発達と健康レベルに応じた看護を展開するための基本となる知識・態度を深めていきます。
- 2.2.3 看護の実践科目では看護実践能力を育成することを目的とし、健康の保持や疾病の予防、疾病・障害の回復過程における看護について系統的に学修します。さらに健康に問題を持つ人々の課題について理解し、生活の質の向上や自立を支援するための知識・技術・態度を深めていきます。
- 2.2.4 看護の発展科目では、看護活動の内容・方法の多様性を知り、これまでの学修を振り返り看護学を創造的に発展させていきます。

3. 学修成果の評価

- 3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。
- 3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

教育目的

人間を総合的に捉え、尊重し、対象者に適した看護を実践するために必要な知識・技術と豊かな人間性、自律的に学び続ける力を備え、対象者の健康回復・増進を図るために主体的に考え行動できる看護職者の育成を目指す。

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能
 - ・高等学校で履修する国語、英語、数学、理科などについての基礎的な知識を持つ。
2. 思考力・判断力・表現力
 - ・人々の健康について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。
3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・看護の分野に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
 - ・知識の修得と実践のために、多様な人々と協働して取り組める。

学部等名 健康医療学部 言語聴覚学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/speech-and-hearing/>

（概要）

言語、聴覚や摂食嚥下分野の基本的な評価と訓練・指導の技術を修得し、さらに基盤となる分野（科学）と幅広い分野（教養）の知識を備え、対象者の状態を理解し、リハビリテーションに関する問題を医師等多職種と連携しながら主体的に解決できる言語聴覚士の育成を目指す。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで

公表)

<https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/speech-and-hearing/>

(概要)

1. 知識・理解

1.1 言語聴覚療法に必要な専門的知識・技能を他領域の知識と関連づけながら修得し、言語聴覚障害分野における諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

2.1 言語聴覚士として、必要な情報およびデータを適切な方法を用いて収集し、活用できる。

2.2 対象児・者と信頼関係を築き、言語聴覚士として安全で効果的なリハビリテーションを実践できる技術を身につけ、問題を解決するための方策を立て、実践することができる。

3. 思考・判断・表現

3.1 言語聴覚障害学分野に関して修得した知識、技能ならびに経験を活かして、自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。

3.2 自ら設定した言語聴覚障害学分野の主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、建設的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

4.1 医療の高度化や変化に対応し、言語聴覚士として生涯にわたり、知識や技能の研鑽に努め、常に向上心を持って、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。

4.2 豊かな人間性とコミュニケーション能力を持ち、リハビリテーション領域におけるチーム医療を推進しながら、自律的な職業人として行動できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/speech-and-hearing/>

(概要)

1. 教育課程編成

1.1 職業人としての基礎力、人間性および倫理観を養い、言語聴覚士としての能力を育成するため、教育課程として「現代リベラルアーツ科目」「専門基礎分野」「専門分野」を配置します。

1.2 職業人としての教養、基礎学力・技能、語学力、協調性を修得することを目的に、「現代リベラルアーツ科目」を配置します。

1.3 言語聴覚士として乳幼児から高齢者まで対象児・者にふさわしい言語聴覚療法が実施できる能力を育成するため、実学を重視した「専門基礎分野」「専門分野」を系統的に配置します。

2. 学修方法・学修過程

(学修方法)

2.1 4年間の教育課程では、各科目を理論的に学修するだけでなく、実習およびキャリア学修も連動させながら、実践的かつ能動的に学修します。

(学修過程)

2.2.1 基礎分野科目では健康医療分野の職業人として必要な幅広い教養を学修します。

2.2.2 専門基礎分野科目では言語聴覚障害学の基礎となる科目を配置し、より専門的な科目に繋がる内容を深めていきます。

2.2.3 専門分野科目では言語聴覚士としての知識・技能・態度について障害領域別に学修

し、対象児・者の問題を理解し、治療や訓練において、自ら問題を発見し、解決する能力を深めていきます。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

教育目的

言語、聴覚や摂食嚥下分野の基本的な評価と訓練・指導の技術を修得し、さらに基盤となる分野（科学）と幅広い分野（教養）の知識を備え、対象者の状態を理解し、リハビリテーションに関する問題を医師等多職種と連携しながら主体的に解決できる言語聴覚士の育成を目指す。

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題や活動に積極的に取り組む意欲や姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校で履修する国語、英語、数学、生物などについての基礎的な知識を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・人の身体・精神・行動の仕組みについて考え判断するための基礎的な能力がある。
- ・自分の考えを的確にことばで表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・リハビリテーションの分野、特に言語聴覚士に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。

- ・様々な人の心情を理解して信頼関係を築こうとする気持ちを持ち、知識の修得と実践のために、多様な人々と協働して取り組める。

学部等名 健康医療学部 健康スポーツ学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/health-and-sports/>

（概要）

健康科学・スポーツ科学といった幅広い分野を融合させた学際的な先端教育研究によって、保健医療の知識や身体運動・スポーツに関わる実践的スキルを修得し、スポーツ教育・保健・福祉、そしてスポーツ・健康産業において、人々のウェルビーイングの実現に貢献する職業人の育成を目指す。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/health-and-sports/>

(概要) 1. 知識・理解 1.1 健康スポーツ科学に関する専門的知識・技能を他領域の知識と関連づけながら修得し、健康スポーツ科学分野における諸問題を解決するために活用できる。 2. 技能 2.1 健康スポーツ科学分野に携わる職業人として、適切な方法を用いて必要な情報を収集し、活用できる。 2.2 対象者と信頼関係を築き、健康スポーツ科学分野に携わる職業人として、安全で効果的なスポーツ指導ができる技術を身につけ、問題を解決するための方策を立て、実践することができる。 3. 思考・判断・表現 3.1 健康スポーツ科学分野に関して修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。 3.2 自ら設定した健康スポーツ科学分野の主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。 4. 関心・意欲・態度 4.1 変容するグローバル社会や健康スポーツ科学分野の諸問題に継続的に関心を示し、知識や技能の研鑽に努め、常に向上心を持って、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。 4.2 健康スポーツ科学分野の知識・技能に基づいて、多様な職種の人々とコミュニケーションを取り、協働しながら、自律的な職業人として行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/health-and-medical-sciences/health-and-sports/
(概要) 1. 教育課程編成 1.1 職業人としての基礎力、人間性および倫理観を養い、健康スポーツ科学分野に携わる者としての能力を育成するため、教育課程として現代リベラルアーツ科目および専門科目を配置します。 1.2 職業人としての教養、基礎学力・技能、語学力、協調性を修得することを目的に、現代リベラルアーツ科目を配置します。 1.3 各世代における健康行動の維持増進、健康寿命の延伸、安全で効果的な運動・スポーツ実践指導能力を育成するため、健康スポーツ科学に関する知識・技能、実践指導力を学修できる「専門科目」を系統的に配置します。 2. 学修方法・学修過程 (学修方法) 2.1 4年間の教育課程では、各科目を理論的に学修するだけでなく、実習およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。 (学修過程) 2.2.1 現代リベラルアーツ科目では、健康スポーツ科学分野の職業人としての幅広い教養を学修し、主体的に行動できる職業人としての基礎力を学修します。 2.2.2 専門科目では実践や地域との連携を通して、社会で活躍するために求められる協働力、行動力、ライフスキル能力等の人間力、コミュニケーション力、リーダーシップを深めていきます。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

教育目的

健康科学・スポーツ科学といった幅広い分野を融合させた学際的な先端教育研究によって、保健医療の知識や身体運動・スポーツに関わる実践的スキルを修得し、スポーツ教育・保健・福祉、そしてスポーツ・健康産業において、人々のウェルビーイングの実現に貢献する職業人の育成を目指す。

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲、活動に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校で履修する国語、英語、数学、地理歴史、理科などについての基礎的な知識を持つ。

- ・課外の運動部活動などを通じて、スポーツ活動・身体活動を遂行するために必要な技能を修得しているとともに、健康や安全に関する一般的な知識を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・人の体と心の健康の維持・増進について考え、正しく判断する能力があり、それらを基に健康的な生活を実現できる力を持つ。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・健康やスポーツに関する知識と技能を主体的に学び修得する強い意欲を持つ。

- ・他者の多様な個性に理解を示し、あらゆる人々に対して利他的な精神で貢献する気持ちを持ち、知識と技能の修得のために多様な人々と協働して取り組める。

学部等名 工学部 機械電気システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/engineering/mechanical-and-electrical-system-engineering/>

（概要）

機械分野と電気分野に跨る専門分野の基礎知識を修得した上で、物事の本質を把握し論理的に思考する能力を身に付け、グローバルな視点で社会ニーズに基づく問題を発見し、自らの専門能力を総合的に駆使して適切に解決できる人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表）

<https://www.kuas.ac.jp/academics/engineering/mechanical-and-electrical-system-engineering/>

(概要) 1. 知識・理解 1.1 機械分野と電気分野に跨る学際的な工学分野の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。 2. 技能 2.1 必要な情報およびデータを適切な方法を用いて収集し、活用できる。 2.2 専門知識や意見について、日本語と英語を用いて他者と意思疎通を行うことができる。 3. 思考・判断・表現 3.1 修得した知識、技能並びに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現することができる。 3.2 自ら設定した主題に対して、文献調査、実験等で収集した情報に基づき、客観的に分析しながら論理的、批判的に考察することができる。 4. 関心・意欲・態度 4.1 学びを通じ、変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。 4.2 多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの学科紹介ページで公表） https://www.kuas.ac.jp/academics/engineering/mechanical-and-electrical-system-engineering/
(概要) ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を有する人材を育成するために、以下の方針に基づいた教育プログラムを実施する。 1. 教育課程編成 1.1 教育課程として、現代リベラルアーツ科目および学部専門科目を配置する。 1.2 機械工学と電気工学に跨る学際領域分野の専門共通科目と専門科目（専門知識と専門技能）を修得させ、多角的に真理を探究する力を育成する。 1.3 専門科目（専門知識と専門技能）を修得後、総合演習（キーストーン、キャップストーン、卒業研究）を通じて、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成する。 2. 学修方法・学修過程 （学修方法） 2.1 4年間の教育課程では、現代リベラルアーツ科目や学部専門科目を理論的に学修するだけでなく、演習、実験・実習、総合演習も連動させながら実践的かつ能動的に学修する。 （学修過程） 2.2.1 学部専門科目としての実験・実習・総合演習を通じて、コミュニケーション力、協働力、課題発見力やリーダーシップを育む学修を行う。 2.2.2 1年生では、初年次科目で、基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力を育む学修を行う。 2.2.3 1年生および2年生では、基礎的な数学・物理・情報処理の知識修得を目指した学修を行い、また、身体活動を通じてコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を育む学修を行う。 2.2.4 グローバルな技術者としての基礎的な英語の語学力の修得を目指して、一貫したカリキュラムで英語科目を学修する。また、英語で学ぶ留学生は、一貫したカリキュラムで

基礎的な日本語科目を学修する。

2.2.5 総合演習で社会の一員として、社会の課題の解決を図る力を育む学修を行う。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページの学部学科紹介ページで公表）

教育目的

機械分野と電気分野に跨る専門分野の基礎知識を修得した上で、物事の本質を把握し論理的に思考する能力を身に付け、グローバルな視点で社会ニーズに基づく問題を発見し、自らの専門能力を総合的に駆使して適切に解決できる人材の育成を目的とする。

本学部の教育目的に即した人材を育成するため、本学部の教育目的を理解し、意欲と主体性をもって勉学に励むことができ、高等学校の教育課程で修得する数学と理科（物理基礎・物理）を中心とした基礎的な学力とそれを活用する論理的思考力、また基礎的な英語力と英語コミュニケーション能力を備える人を求めます。

1. 工学を学ぶために必要な基礎的な知識・技能を有する。
2. 工学について考え、判断する能力があり、自分の考えを表現できる。
3. 工学に対する強い興味・関心があり、創造的思考力を育むため、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
4. 複雑で複合的な問題に挑戦するために、多様な人々と協働して取り組める。
グローバル社会で活躍できる教養（専門性・先進性・多様性・道徳性）を身に付け、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kuas.ac.jp/about/outline/organization#chart>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6 人	—					6 人
経済経営学部	—	27 人	10 人	5 人	人	人	42 人
人文学部	—	12 人	12 人	5 人	人	人	29 人
バイオ環境学部	—	13 人	11 人	8 人	人	人	32 人
健康医療学部	—	20 人	16 人	26 人	6 人	人	68 人
工学部	—	11 人	8 人	5 人	2 人	人	26 人
その他	—	19 人	8 人	28 人	人	人	55 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		205 人					205 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/info/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
大学教育改革部会および各学部・研究科 F D 委員会が活動方針と年間計画を定め、F D 活動を推進している。							
＜主な F D 活動＞ ・授業評価結果による授業改善 ・授業公開・見学結果による授業改善 ・ICT 活用、アクティブ・ラーニング研修 ・カリキュラム・アセスメント ・外部アセスメントテスト・学生アンケートの実施							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済経営学部	370 人	327 人	88.4%	1480 人	1264 人	85.4%	－人	0 人
人文学部	170 人	127 人	74.7%	680 人	538 人	79.1%	－人	1 人
バイオ環境学 部	160 人	84 人	52.5%	640 人	360 人	56.3%	－人	0 人
健康医療学部	200 人	183 人	91.5%	800 人	730 人	91.3%	－人	0 人
工学部	200 人	181 人	90.5%	800 人	588 人	73.5%	－人	0 人
合計	1100 人	902 人	82.0%	4400 人	3480 人	79.1%	－人	1 人

(備考)
・ バイオ環境学部 生物環境科学科および応用生命科学科は令和 7 年度開設（完成年度到達前）。
・ バイオ環境学部 バイオサイエンス学科、バイオ環境デザイン学科、および食農学科は令和 7 年度募集停止。
・ 上記によるバイオ環境学部全体の入学定員総数に変更はなし。
・ 工学部の入学定員と入学者数は令和 6 年度秋入学を含む。
・ 編入学は欠員のある場合に限る。

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済経営学部	278 人 (100%)	7 人 (2.5%)	247 人 (88.9%)	24 人 (8.6%)
人文学部	119 人 (100%)	6 人 (5.0%)	94 人 (79.0%)	19 人 (16.0%)
バイオ環境学部	76 人 (100%)	7 人 (9.2%)	62 人 (81.6%)	7 人 (9.2%)
健康医療学部	131 人 (100%)	3 人 (2.3%)	121 人 (92.4%)	7 人 (5.3%)
工学部	73 人 (100%)	4 人 (5.5%)	66 人 (90.4%)	3 人 (4.1%)
合計	677 人 (100%)	27 人 (4.0%)	590 人 (87.1%)	60 人 (8.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
・授業計画（シラバス）の作成過程・時期 大学教務委員会において各学部各学科の授業科目の担当者を決定した後、12 月に教務センター長名で各科目担当者に授業計画（シラバス）の執筆を依頼する。1 月中旬までに担当者が各科目の授業計画（シラバス）を作成し、学生情報共有システムに入力する。その後、全シラバスについて、大学教務委員会構成員が責任をもってチェックを行い、不適切な個所があるものについては各科目担当者に修正を依頼する。 ・授業計画書の公表時期 春学期のオリエンテーション開始前に本学ホームページ上で公開する。

・授業計画（シラバス）の内容

シラバスの記載項目及びその概要は、以下の通り。

1. 「授業概要」には授業で学ぶ内容とその意義・目的について概略を記述している。目的部分は、学生からの「なぜこれを学ぶ必要があるのか？」という問いに対する、教員からの回答を想定した内容となっている。また、実務経験のある教員等によってなされる授業科目についてはその旨を記載している。
2. 「到達目標」は、学生を主語にし、観察可能な動詞（「説明する」「討議する」など）を用いながら、3つ以上5つ以下の目標を記述している。また、各目標は授業の学修目標である卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を具体化したものであり、教育方法や成績評価方法・基準と対応させている。
3. 「成績評価基準」は、授業の学修目標である卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を具体化したものであり、到達目標ごとに3段階（「十分に到達できている」（S・A相当）・「一部は到達できている」（B・C相当）・「かなりの努力を要する」（F相当））で評価の基準を記述している。記述に際しては、基準として「何ができれば目標を達成したとみなされるのか」を段階ごとに記載してある。
4. 「成績評価方法」については、本学では学修意欲の増進の一要素として、授業内レポートや小テスト等多面的評価を行うことを強く推進している。また、到達目標や教育方法と対応させながら、数値等を用いた具体的な記述となっている。出席はするので当然なので「出席点」という言葉は用いないようにしている。
5. 「授業区分」は、「遠隔科目」か「対面科目」かを明示している。
6. 「使用言語」は、授業で主に使用する言語について明示している。
7. 「授業スケジュール」は必ず1～15回、1～30回に分けてすべての授業計画を箇条書きで記述している。また、遠隔授業を実施する授業回についても明示している。
8. 「教育方法」は講義法やアクティブ・ラーニングなどの各回の授業方法や授業形態を明示している。
9. 「授業外学修」は、授業外学修の内容および必要時間数を記載している。
10. 「課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法」は、定期試験、レポート、授業内小テストに対して行う講評・解説などのフィードバック方法について明示している。
11. 「遠隔授業の実施方法」は、具体的な遠隔授業の実施方法を明示している。
12. 「教材（教科書）」は授業で使用する教科書を、「教材（参考資料）」は授業に関わる参考資料を記載している。
13. 「受講条件」は、事前または並行して履修が必要な科目や能力を記載している。
14. 「受講のルール」は受講生との約束事、受講のマナー、守られなかった場合の対応などを記載している。
15. 「学習上の助言」は効果的な学習のための助言を記載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
(概要)

・学修の成果に係る評価の基準に関すること

各科目の到達目標及び成績評価の基準として、各科目3つ以上5つ以下の到達目標を設定し、到達目標ごとに3段階の成績評価基準（「十分に到達できている」（S・A相当）・「一部は到達できている」（B・C相当）・「かなりの努力を要する」（F相当））を設定し、シラバスに明記している。基準として「何ができれば目標を達成したとみなされるのか」を段階ごとに記載している。また、現代リベラルアーツ科目（大学共通科

目を含む) について、レポート、プレゼンテーション、コミュニケーション力、および情報リテラシーを評価する場合は、評価基準として共通の課題ルーブリックを用いている。

成績評価方法については、授業内レポートや小テスト等多面的評価を行うことを強く推進している。シラバスでは、到達目標や教育方法と対応させながら、数値等を用いた具体的な記述となっている。

以上のように、各科目であらかじめ設定された成績評価基準に従って、各学生の学修成果に基づき、厳密かつ適正に成績を評価し、単位授与を実施している。

・卒業の認定の基準に関すること

大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 知識・理解

1.1 核となる特定の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

2.1 適切な方法で収集した情報およびデータを活用できる。

2.2 多様な言語を用いて、他者と意思疎通を行うことができる。

3. 思考・判断・表現

3.1 修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。

3.2 自ら設定した主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

4.1 変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。

4.2 多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。

上記の大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、各学部学科のディプロマ・ポリシーを策定している。卒業要件については、学則並びに履修要項に、卒業単位数を修得すること等が明示されている。学部教授会においては、ディプロマ・ポリシーおよび卒業要件に基づき卒業判定を行っており、卒業判定を適切に行うための措置がなされ、適切な学位授与が行われている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済経営学部	経済学科	124 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位
	経営学科	124 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位
人文学部	心理学科	124 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位
	歴史文化学科 (2025)	124 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位
	歴史文化学科 (2019～2024)	128 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位
バイオ環境学部	生物環境科学科 (2025)	128 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位 (4 年次は各セメスター 20 単位)
	応用生命科学科	128 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位

	(2025)			(4 年次は各セメスター 20 単位)
	バイオサイエンス学科 (2019～2024)	128 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位 (4 年次は各セメスター 20 単位)
	バイオ環境デザイン学科 (2019～2024)	128 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位 (4 年次は各セメスター 20 単位)
	食農学科 (2019～2024)	128 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位 (4 年次は各セメスター 20 単位)
健康医療学部	看護学科	126 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位
	言語聴覚学科 (2025)	126 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位
	言語聴覚学科 (2019～2024)	124 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位
	健康スポーツ学科	124 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位
工学部	機械電気システム 工学科	128 単位	⑦・無	各セメスター 24 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kuas.ac.jp/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名		授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
経済経営学部	経済学科 経営学科	1 年生	824,000 円	260,000 円	60,000 円	その他は施設設備費
		2～4 年生	824,000 円		320,000 円	
人文学部	心理学科 歴史文化学科	1 年生	824,000 円	260,000 円	60,000 円	その他は施設設備費
		2～4 年生	824,000 円		320,000 円	
バイオ環境学部	生物環境科学科 応用生命科学科	1 年生	1,020,000 円	260,000 円	240,000 円	令和 7 年度開設（完成 年度到達前） その他は施設設備費、 実験実習費
	バイオサイエンス学科 バイオ環境デザイン学科 食農学科	1 年生	1,020,000 円		400,000 円	令和 7 年度募集停止 その他は施設設備費、 実験実習費
		2 年生	1,030,000 円		480,000 円	
		3 年生	1,040,000 円		490,000 円	
健康医療学部	看護学科	1 年生	1,050,000 円	260,000 円	590,000 円	その他は施設設備費、 実験実習費
		2～4 年生	1,050,000 円		650,000 円	
	言語聴覚学科	1 年生	900,000 円	260,000 円	440,000 円	その他は施設設備費、 実験実習費
		2～4 年生	900,000 円		550,000 円	
	健康スポーツ学科	1 年生	850,000 円	260,000 円	290,000 円	その他は施設設備費、 実験実習費
		2～4 年生	850,000 円		400,000 円	

工学部	機械電気システム工学科	1 年生	940,000 円	260,000 円	400,000 円	その他は施設設備費、 実験実習費
		2～4 年生	940,000 円		520,000 円	
在籍料	休学者	春学期			10,000 円	休学中の在籍料
		秋学期			10,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 1. 奨学金制度による修学継続支援 ・家計急変により学費納付が困難となった学生を対象とした奨学金制度を運用 ・後援会（父母の会）が提供する奨学金制度を学生へ周知 2. 福利厚生の実施による学生満足度向上 ・食事環境の整備（食堂・購買施設等） ・運動施設の充実（トレーニングルーム開放、屋内外運動施設利用促進） 3. 課外活動の促進による学生満足度向上 ・学生自治組織（学友会）の活動支援 ・学内公認団体（クラブ/サークル）の活動支援
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・定期的に合同企業説明会、業界研究セミナーを開催し、業種・業界への理解を深め、幅広い視野と選択肢の中で学生が自律的にキャリア選択を行うことに繋げていく。また、留学生が能力を発揮できる就職先を開拓するとともに、英語基準大学院学生の就職先開拓も強化する。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 1. 学生相談室では臨床心理士等有資格者を中心とした個別心理カウンセリングやグループワーク企画を実施 2. 保健室では、疾病の早期発見、健康の維持増進を目的として健康診断の実施と実施後の個別対応を実施。また、安全でより良い大学生活を送ることができるよう健康の側面から大学内の環境整備や啓発活動を実施。 3. 学生支援室は、障がいを持つ学生の相談窓口として合理的配慮の上、障がいを持たない学生と実質的に平等かつ公平な修学環境を得られるよう支援

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/info/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F126310107635
学校名（〇〇大学 等）	京都先端科学大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 永守学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		450人（ 一 ）人	420人（ 17 ）人	474人（ 23 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	270人	264人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	100人	89人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	58人	39人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	一人	11人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	一人	17人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				474人（ 23 ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	27人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	一人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	33人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	38人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	人	人
計	38人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。